

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0792900011		
法人名	医療法人 久慈会		
事業所名	グループホーム 志宝台		
所在地	〒963-6123 福島県東白川郡棚倉町大字関口字一本松164-3 (電話) 0247-57-9101		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費2,000円	
敷金	(有) (60,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	0名		要介護2	5名		
要介護3	3名		要介護4	1名		
要介護5	0名		要支援2	0名		
年齢	平均	83歳	最低	61歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東白川中央病院、藤田歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入った田園風景が広がる自然豊かな環境の中にある1ユニットのホームである。近くに大型スーパーや公園、公共施設があり、恵まれた環境である。また、敷地が広く畑や花壇があり、建物内部も共用空間や居室が広くゆったりとしている。職員のほとんどが施設業務の経験が少なく、開設後1年を経てようやく落ち着き、現在は管理者を中心に全職員が一丸となって意欲的にケアに取り組んでいるのがうかがえる。利用者の表情が豊かで皆落ち着いており、笑顔が多いのが印象的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の項目等について細部にわたり職員で検討し、全職員で取り組んでいる。初めての評価であるため、この評価結果を踏まえ、サービスの質の向上に努めていくことにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は未設置であるため、現在各委員へ働きかけを行い準備中である。運営推進会議は事業所の活動を明示し、助言等を得ながら地域に開かれたサービスの質の確保を図ることを目的としているため、早急な設置が望まれる。また、運営推進会議は定期的(概ね2ヶ月に1度)に開催されることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族にアンケート調査(満足度調査)を行い、意見や苦情の把握に努めている。また、家族の面会が多く、面会時には必ず家族と話し合い、情報を得るように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時の挨拶程度の交流であったが、病院の受診の際や買い物等あらゆる機会を捉え、交流に努めてきている。しかし充実しているとはいえず、今後運営推進会議等の協力を得て、さらに地域との交流に努められることが望ましい。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を職員全員で作り上げ、理念の中には地域密着型サービスの内容をうたっており、日々実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎日の申し送り簿に貼付し、常に職員の目に留まるようにして、職員全員が理念の実践に努めており、日々のケアの中に取り組めるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設して1年、地域との交流はまだ希薄であるが、徐々に地域住民との交流ができてきている。また、町内会加入についても地域と話し合いをしている段階である。今後は地域行事への参加等について積極的に働きかけ、地元との交流に努められることが望ましい。	○	地域密着型サービスの観点から、地域との交流については、最重要課題として捉え早急に取り組まれることが望まれる。運営推進会議の協力を得て取り組まれると良いと思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で日々のサービスを振り返りながら課題を明らかにし、評価に取り組んでいる。この評価結果を踏まえ、今後のサービスに活かしていくことにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は未設置である。現在推進会議の設置に向けて準備中である。運営推進委員として地区長、地域住民、民生委員、地域包括センター、行政、利用者家族等に働きかけをしている段階である。	○	運営推進会議の意義や役割をよく理解し、早急に設置されることが望まれる。また、会議は定期的(例：奇数月の第3火曜日等)に開催し、この外部評価の結果等も公開し、サービスの質の向上に努められることが望まれる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付の際に、居室担当者が手紙で利用者の状況や金銭管理等を報告している。また家族の面会が多いので、その機会に利用者の様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケート調査を行い、意見や苦情の把握に努めている。また、職員は家族の面会時には気軽に何でも話せるような雰囲気作りに努め、そこで出されたことは会議等で話し合い、運営に活かす取り組みを積極的に行っている。運営推進会議が充実されれば家族の意見も容易に反映されると思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者を不穏にさせることを十分理解しているので、最小限度にとどめるよう努めている。また、やむを得ない異動(退職)があったときは馴染みの職員が新しい職員と一緒に十分にコミュニケーションがとれるよう支援し、利用者のダメージを防ぐよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な機関で開催する各種研修会に、職員の経験年数や職責等に応じて参加している。また、職員の資格取得に対して支援しており、資格取得した場合には待遇に反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会等に順番に出席し、積極的に情報交換をしている。また、各事業所の職員同志の交流も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なこと(野菜作り、料理、編物、裁縫、書道等)や地域の習慣・行事等を教えてもらい、共に生活することを大切にしたい支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握については日常生活の中で汲み取るよう努力している。また、家族から情報を得て支援している。掃除、洗濯物の取り込みや片付け、野菜作り等利用者のできることや好きなことなど個人の意向を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に聞き取りをしたり、本人から話を聞くなどしている。計画作成に関しては担当者が作り、全職員で検討し、完成させている。センター方式を部分的に活用し取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほかにも、日々ケアの場面において意見交換し、利用者に状態の変化があれば家族と話し合い、すぐに計画の見直しをし、ケアの実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援しており、通院には職員が付き添いその結果は家族に報告し、情報の共有に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針は作成されていない。また、利用者や家族の意志の確認もされていない。	○	重度化に関するホームの指針を作成し、利用者や家族へ説明する必要があると思われる。「重度化に伴う意志の確認書」等により家族の意志を確認し、職員間でその対応について情報を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応の徹底を図っており、個人情報に関する書類の保管庫には鍵をかけ、管理している。また、個人情報の利用同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や思いに配慮しながら、柔軟に支援している。食事、買い物、外出等利用者の希望を取り入れ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれ自分のできること（調理、配膳、後片付け等）を自然に行っており、職員も利用者も一緒に食事を楽しんでいる。また、食事の前には全員で嚙下体操をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞きながら入浴を支援しており、いろんな入浴剤を使用し温泉気分を味わってもらっている。入浴拒否者はおらずほとんどが入浴を楽しみにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の力量に応じて、料理や農作業等を職員と一緒にいき、張りのある日々を過ごせるよう支援している。農作業の季節にはほとんどの利用者が畑に出て野菜作りを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	散歩や買い物は利用者の体調や気候に応じて支援している。また、初詣、お花見、紅葉狩り等あらゆる機会を作り、出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホームの玄関は施錠していない。職員がさりげなく見守り、外出の気配を察知し、一緒についていくなど安全に配慮した自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はまだ実施していない。消防署の協力を得て3月に実施するということが、今後は年間行事に組み込み定期的実施されることが望ましい。また災害時の食糧品、飲料水等の備蓄が必要と思われる。	○	防災対策の重要性を認識し、早急に取り組まれることを望ましい。非難訓練等あらゆる場面を想定し、職員全員が日常的に実践できる方法を身につけることが大切である。また、非常時の食料品等の備蓄をされることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の栄養士が作成したものを参考にしており、職員は利用者の食事量や水分の摂取量(毎日記入している)を把握し、栄養の偏りやカロリーの過不足等に配慮している。また、月1回体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、利用者が自由にくつろげるようテーブルや椅子が配置されている。季節によりこたつも設置され、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごしている。日中はほとんどの利用者が共用空間に集まり、特に冬の時期には広い廊下を利用して歩行訓練や手すりにつかまって足腰のリハビリを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家で使用していた物を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。クローゼットが設置されているので、整理整頓がしやすくなっており、清潔で明るい居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム志宝台

記入担当者名 金澤 敏子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。